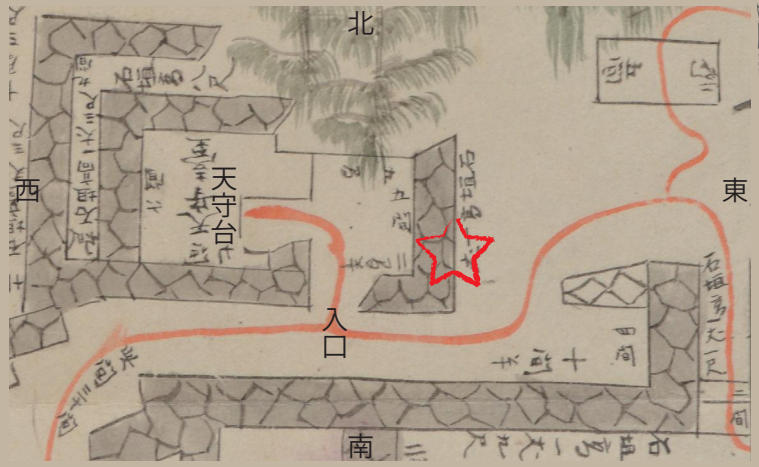
岐阜城天守台

令和３年度の発掘調査

お城の中核部は「天守（てんしゅ）」です。天守はひときわ高く、より目立つ存在にするため、城内でも最も高い場所に造られました。岐阜城の場合は金華山の山頂です。天守を建てるスペースを確保するため、石垣を築き平坦地を造り出しています。これが「天守台」です。現在の復興天守がある天守台の石垣は、大半が明治時代に積み直されたもので、戦国時代の姿を留めていません。また、天守へ上がる入口部分の施設も大正時代頃に半分壊されてしまっています。岐阜城の中核部は果たしてどんな構造だったのでしょうか。

現在の岐阜城復興天守とその周辺（南から）



伊奈波神社蔵『稲葉城趾之図』（江戸時代中期）

伊奈波神社（いなばじんじゃ）が所蔵する絵図を見ると、「天守台（てんしゅだい）」に付属する五間（ごけん）四方の曲輪（くるわ）が描かれています。その曲輪の東には高さ一丈（いちじょう）（約３ｍ）の石垣がありました。

現在の復興天守の入口前にも小さな平坦地（曲輪）がありますが、その東に石垣は見当たりません。

岐阜市歴史博物館蔵絵葉書『岐阜古城址天守閣』（大正頃）

上は初代復興天守（明治４３年建設）が建てられた後に写された絵葉書の写真です。この写真には石垣が写っており、石垣は明治時代末以降に壊されてしまったことが分かります。

今回の調査は、この失われた石垣を確認するために行いました。その結果、石垣の最下段を見つけることができました。

戦国時代の岐阜城の中核部分は、裏のイラストのように復原することができそうです。構成する石垣や階段、平坦地などは、当時の姿をほとんど見ることができませんが、今回の調査で、戦国時代の「本物」の石垣を確認できたことは、非常に重要なこととといえます。

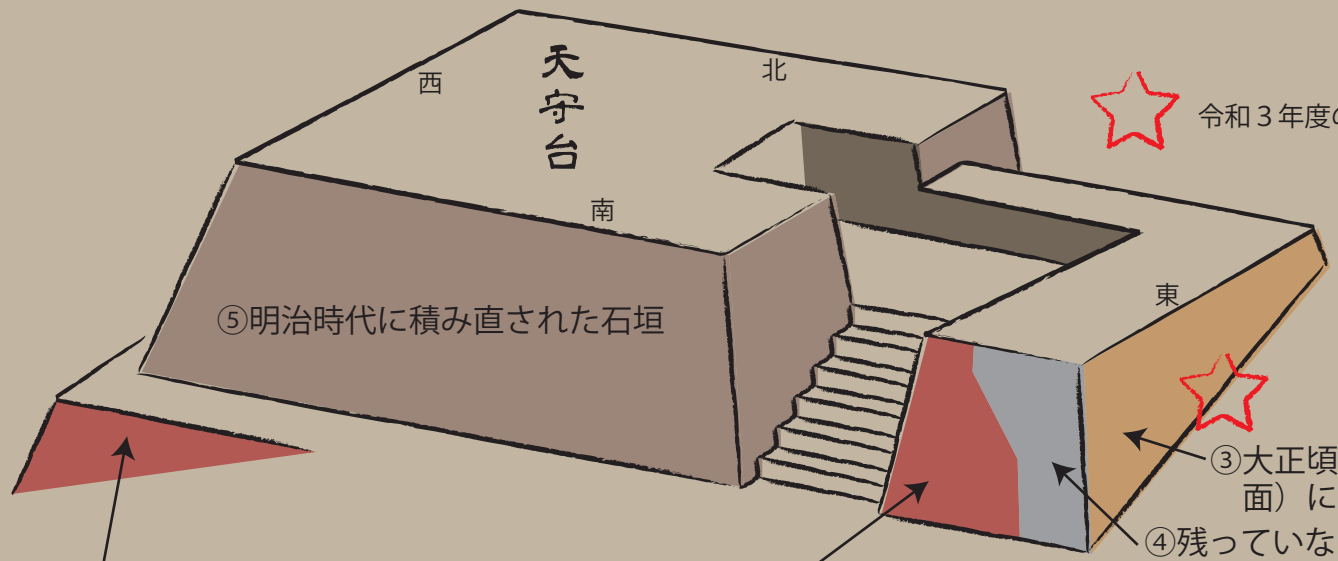
天文８年頃	(1539)	斎藤道三が稲葉山城に拠点を置く
永禄 10 年	(1567)	織田信長、稲葉山城を落とし、本拠とする
天正４年	(1576)	信長、安土城へ移り、織田信忠が跡を嗣ぐ
天正 10 年	(1582)	本能寺の変
天正 11 年	(1583)	池田元助入城
天正 13 年	(1585)	池田輝政入城
天正 19 年	(1591)	豊臣秀勝入城
文禄元年	(1592)	織田秀信入城
慶長５年	(1600)	関ケ原合戦の前哨戦で岐阜城落城
明治 43 年	(1910)	復興天守建設
昭和 18 年	(1943)	火事により焼失
昭和 31 年	(1956)	復興天守再建

☆ 令和３年度の発掘調査地点

岐阜市ぎふ魅力づくり推進部文化財保護課
（公財）岐阜市教育文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所

天守台周辺の構造

令和３年度の発掘調査



現在も残る①と②の石垣は、石材の形状や積み方が異なります。

②の石垣は、”算木（さんぎ）積み”という新しい技術の積み方がされており、この部分は池田輝政（いけだてるまさ）が城主の頃（1585-1591）の改修と推測されています。江戸時代に書かれた文献には、「池田輝政が天守を建てた」と記されており、この改修工事のことを指すのかも知れません。今回見つかった石垣は、この時のものと考えられます。

それに対して①はまだ古い技術の積み方をしており、信長によって造られた可能性が高いです。

①当時の姿が残っている石垣（織田信長）

②当時の姿が残っている石垣（池田輝政）

発掘で見つかった石垣の位置

①の実測図

②の実測図

発掘で見つかった石垣